

令和8年度 事務事業評価シート（1）
[令和7年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	青少年センター図書室運営			事業番号	038-070	
担当部署名	教育委員会事務局	局	地域教育支援部	部	地域教育振興課	課

Ⅰ．基本情報								
事業の位置付け								
1	堺市基本計画2025	施策との関連	有・無	戦略	3.将来に希望が持てる子育て・教育 ～Children's future～		施策	(4)安心して学べる教育環境の充実
			有	取組の方向性	⑥生涯学習の推進			
		寄与するKPI	有・無	指標名	—			
	無		現状値	—		目標値	—	
	堺市SDGs未来都市計画 2021-2025	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(4)質の高い教育をみんなに		ターゲット	4.7
			有	取組	生涯を通じた学びの支援			
寄与するKPI		有・無	指標名	—				
	無	現状値	—		目標値	—		
2	関連計画			第3期未来をつくる堺教育プラン				
3	事業開始年度			昭和 57 年度		点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度	
4	実施根拠			図書室の使用は、使用の許可・使用料等に関するものを除き、堺市立青少年センター等の設置及び管理に関する条例及び堺市立青少年センター等の設置及び管理に関する条例施行規則に準ずる。 図書室の運営は、堺市立図書館管理運営規則及び堺市立図書館各種要綱・基準等に準ずる。				
事業の概要								
5	事業の実施主体			本庁				
6	事業の対象			図書室の周辺地域の住民をはじめとする市民の方等			対象数	単位
							約80万	人
7	事業の目的			図書情報サービスを提供することにより、青少年をはじめ、広く市民の読書活動及び生涯学習の支援を図ること				
8	事業内容			「図書館情報ネットワークシステム」を利用して一体的・効率的な図書の貸出・返却を行っている。また、これまでに知らなかった、関心のなかった本に興味を持ってもらう工夫として、ブックフェアを年間6回実施している。				
	※国・府の基準より上回って実施した内容			—				
9	主な支出先			—				
10	公民連携・協働事業			—				

Ⅱ．事業目的の達成状況								
事業の成果や活動実績の測定								
11	成果指標	単位		実績		目標	目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度	
		年間個人貸出者数	人	目標値	25,000	25,000	25,000	25,000
				実績値	23,793	23,130		
	達成率			95%	93%			
	当該指標を選定した理由		貸出業務を主とする図書室の事業効果・活動実績を測定するに当たっては年間個人貸出者数が成果指標として適しているため。					
目標値の設定根拠・算出方法		前年度実績から設定						
12	活動指標	単位		実績		目標		
				令和6年度	令和7年度	令和8年度		
		利用者からのレファレンス・問合せ件数	件	目標値	2,100	2,100		2,100
				実績値	1,493	1,367		
	達成率			71%	65%			
	当該指標を選定した理由		利用者からのレファレンス・問合せには、利用者に対する本に関する情報の提供が含まれており、その内容を精査することで、その件数の増加ひいては個人貸出者数の増加につながるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		前年度実績から設定						

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	青少年センター図書室運営	事業番号	038-070
-------	--------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト						※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。					(単位：千円)			
13	財 源 内 訳	項 目	令和5年度		令和6年度		令和7年度				令和8年度			
			決算		決算		当初予算		決算		当初予算			
		事業費 (a)		11,707		13,855		14,577		15,505		16,002		
		国支出金		0		0		0		0		0		
		府支出金		0		0		0		0		0		
		市債		0		0		0		0		0		
		その他 ()		0		0		0		0		0		
		受益者負担金(使用料、手数料等)		0		0		0		0		0		
一般財源		11,707		13,855		14,577		15,505		16,002				
14	人件費 (b)		10,960		10,900		10,080		10,080		10,440			
15	年間経費 (c)=(a)+(b)		22,667		24,755		24,657		25,585		26,442			
事業費の内訳													(単位：千円)	
16	事 業 費 内 訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源			
		会計年度任用職員報酬		R7	決算	10,108	10,108	青少年センター施設維持管理費等負担金		R7	決算	334	334	
				R8	予算	10,336	10,336			R8	予算	504	504	
		期末勤勉手当（会計年度任用職員）		R7	決算	3,917	3,917			R7	決算			
				R8	予算	3,995	3,995			R8	予算			
		費用弁償		R7	決算	739	739			R7	決算			
				R8	予算	739	739			R8	予算			
		消耗品費		R7	決算	323	323			R7	決算			
				R8	予算	332	332			R8	予算			
通信運搬費		R7	決算	84	84			R7	決算					
		R8	予算	96	96			R8	予算					

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費					
17	区 分			単位	令和7年度
	① 年間個人貸出者数			人	23,130
	② 上記①にかかる年間経費			千円	25,585
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）			円/単位	1,106
算出についての説明等		—			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見							
18	給与改定による人件費が増加したが、その他の経費の節減に努め、単位当たり経費の増加率を人件費の増加率よりも低位に抑制することができた。						
KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）							
19	・情報発信や利用機会促進のための取組を実施し、利用者サービスの向上やレファレンスサービスの充実に努めたことにより、青少年をはじめ、広く市民の読書活動及び生涯学習の支援を図ることに寄与した。 ・ブックフェアの実施やおすすめ本コーナーの設置等、様々なジャンルの本に興味を持ってもらうための行事や取組を行っており、とりわけ、こどもたちの興味をひくような展示物を設置し、図書室に親しみをもってもらえるよう、青少年向け雑誌やコミックを配架し、利用機会の増加促進に努めている。 ・年間個人貸出者数、利用者からのレファレンス・問合せ件数とも減少している要因として、周辺校区の児童数の減少等が考えられる。放課後の学習の場を提供している青少年センターの特性を活かし、同施設の利用者である児童の興味をより一層引きつけるよう、ブックフェアのPRやおすすめ本コーナーについて、創意工夫を凝らした運営を行う。						
20	令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載） <table><tr><td>必要性</td><td>☒ 高い ☐ 低い</td><td rowspan="2">周辺地域の児童が訪れる青少年センターの特性を活かし、ターゲットを絞ったブックフェアやおすすめ本コーナーの運営等により図書室の利用機会の創出と読書意欲の喚起に取り組んでおり、青少年をはじめ市民の読書活動及び生涯学習の支援に寄与していることから、必要性・有効性のある事業であるとする。</td></tr><tr><td>有効性</td><td>☒ 高い ☐ 低い</td></tr></table>	必要性	☒ 高い ☐ 低い	周辺地域の児童が訪れる青少年センターの特性を活かし、ターゲットを絞ったブックフェアやおすすめ本コーナーの運営等により図書室の利用機会の創出と読書意欲の喚起に取り組んでおり、青少年をはじめ市民の読書活動及び生涯学習の支援に寄与していることから、必要性・有効性のある事業であるとする。	有効性	☒ 高い ☐ 低い	
必要性	☒ 高い ☐ 低い	周辺地域の児童が訪れる青少年センターの特性を活かし、ターゲットを絞ったブックフェアやおすすめ本コーナーの運営等により図書室の利用機会の創出と読書意欲の喚起に取り組んでおり、青少年をはじめ市民の読書活動及び生涯学習の支援に寄与していることから、必要性・有効性のある事業であるとする。					
有効性	☒ 高い ☐ 低い						